

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒、保護者、教職員が「みんなの大手前 みんなが大手前」と誇れる学校づくりをめざす。

- 1 生徒のニーズや学力に沿ったきめ細かい授業を展開し、「自己実現のサポート」体制を充実させる。
- 2 幅広い年齢層や多様な価値観を持つ生徒が、「入ってよかったと実感できる学校」づくりを推進する。
- 3 現代社会を生き抜いていくための基本的な資質や能力を備え、「社会の一員として自立」した生活を営むことのできる力を養う。

2 中期的目標

1 生徒各自が持つ学力の最大限の伸長 「自己実現のサポート」

(1) 生徒の学力の正確な把握

ア 適性検査や基礎学力テスト等による生徒各自が持つ潜在的な能力の発掘と指導の展開

※ 数学基本力調査 漢字検定(自作) 日本語テストの実施

(2) 生徒の自己実現を促進するための取組み

ア 落ち着いて学習に臨めるための環境整備と規律指導

※ 学校教育自己診断(生徒)による「授業中は集中している」R4も肯定率85%以上を維持。(H29:82%、H30:90%、R1:87%)

イ 少人数授業や必要に応じた抽出授業による、「授業がわかった」、「授業が楽しい」「力を伸ばし、成長できた」と生徒が思う授業づくりの推進

ウ T-NETの活用による生徒の英語コミュニケーション力の向上

※ 英語外国人講師授業アンケートによる満足度R4も肯定率85%以上を維持。(H29:90%、H30:92%、R1:90%)

エ ICT機器や視覚教材を使った授業の推進

オ 日本語指導を必要とする生徒への支援体制の整備

※ 授業アンケートによる「日本語指導の満足度」R4には80%以上をめざす。(R2:70%以上、R3:75%以上)。

2 生徒各自に必要な支援を行える体制づくり(スクールソーシャルワークの組織的体制の充実) 「入ってよかったと実感できる学校」

(1) 個に応じた支援体制の強化に向けた取組み

ア 新入生の情報の収集及び中学校との連携強化による支援方策の検討

※ 配慮が必要な入学予定生の出身中学校や福祉機関と連絡を取り、情報共有する。

イ 生徒情報を共有した全教職員による細やかな指導を実施

※ 卒業率についてR4以降も80%以上を維持する。(H29:78%、H30:90%、R1:90%)

ウ 校内生徒支援委員会の機能充実

※ SSW同席による校内生徒支援委員会をR4も年間10回以上実施する。(H29:8回、H30:10回、R1:13回)

※ 支援委員会における個別生徒の状況観察(Observe)、状況判断(Orient)、支援計画の立案・意思決定(Decide)、実践(Act)、のOODAループを確立する。

エ 生徒が気軽に相談できる場所を増やす。

※ 外部人材による生徒支援を継続する。(関西大学臨床心理専門職大学院生との連携等)

3 キャリア教育と人権教育の充実 「社会の一員として自立」

(1) 入学から卒業までの期間を見通した、キャリア教育の実践

ア 卒業後の生活設計を考えた、生徒個々の進路指導の充実

※ 進路未決定率を少しでも減少させる。R4は15%以下をめざす。(H29:18%、H30:16.7%、R1:16%)

※ 学校教育自己診断(生徒)による進路指導の満足度をR4には75%以上をめざす。

※ ハローワークや若者サポートステーション等との連携。

イ 社会人基礎力の養成

ウ 就職希望者の内定率を高めるための勉強会や就職試験対策に関する取組みの充実

※ 学校斡旋就職内定率についてR4も100%を維持する。(H29:100%、H30:100%、R1:100%)

エ 保護者との情報共有、連携をすすめる。

(2) 人権教育推進委員会の活性化と人権ホームルームの計画・実施

4 学校力の向上 「みんなの大手前 みんなが大手前」

(1) 組織力を高める教職員相互のスキルアップと外部機関との連携促進

ア 将来の学校像について中・長期的なビジョンを持って検討する。

※ 拡大企画調整委員会を検討の場とする。

イ 落ち着いた教育環境の保持及び学校生活のマナーについて組織的な指導体制の構築

※ R4も生徒指導件数をごく少数に抑える。(H29:0件、H30:0件、R1:2件)

ウ 研修と相互研鑽を通じて教職員の力量を高める。

※ 教職員研修を年間6回以上実施する。R4も6回以上実施。(H29:4回、H30:6回、R1:12回)

※ 研究公開授業週間を教職員同士で学びあえる場になるよう工夫する。

※ 職員会議の効率化を図り、教職員研修の時間を確保するよう工夫する。

※ 定時制高校相互の授業実践見学や情報共有、他校の先進事例等の研究を推進する。

エ 専門的な知識・技術を有する外部機関との連携強化

※ 若者サポートステーション主催の連絡会議に出席し、情報共有する。

オ 広報活動の活性化(中学校への広報、学校ホームページや学校案内パンフレットの有効活用)

(2) いきいきとした学校生活を送るための環境整備

ア 部活動の活性化

イ 保護者との連携強化

※ 学校教育自己診断(保護者)による「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」R4も80%以上を維持。(H29:81%、H30:89%、R1:93%)

ウ 地域との連携による防災活動の推進

※ 地域自治体との共催で災害時避難所実習を実施する。R4まで継続実施する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>〈生徒〉</p> <p>学校運営協議会の意見をふまえ支援と休業について、質問を新設した。</p> <p>10. 先生たちは自分たちが困っていることについて支援してくれる。(肯定率98%) 学習支援と生活支援を行うのが本校のつよみである。</p> <p>16. 緊急事態宣言発出による4月5月の学校休業中の対応は充分だった。(肯定率77%) 生徒も教職員もはじめての体験であったが、支援に努め、今年度はなんとか乗り切ることができた。他の質問に関しては従前と比べ大きな変化はなく、学校再開後、落ち着いて学校生活が送れている様子があらわれている。</p> <p>〈保護者〉</p> <p>未成年の生徒の保護者17名から回答をえた。20ポイント以上減少の質問が以下の1問である。</p> <p>4. 学校の生徒指導の方針に共感できる。(肯定率65%)</p> <p>今後、特に未成年の生徒の保護者に対して、学校の生徒指導方針を伝える機会を増やすよう検討する。</p> <p>〈教職員〉</p> <p>学校運営協議会の意見をふまえ生徒の支援について、質問を新設した。</p> <p>21. 生徒一人ひとりへの細やかな支援の方策を検討している。(肯定率98%) 生徒からも上記の質問10にみられるように、教職員が尽力している個に応じた生徒支援は、実を結んでいる。</p> <p>昨年度と比べ、20ポイント以上の肯定的意見の減少が見られた質問もある。回答者が17名のため、一人当たりの回答が約6%の反映となる。以下⇒は、明らかになった課題とその対策を記す。</p> <p>1. 学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。</p> <p>36. 教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている</p> <p>6. 他教科の担当者とも話し合いながら指導方法の工夫に努めている。</p> <p>⇒「話し合う」活動に割ける時間や余裕が本年度は少なかった。COVID-19の影響もあるが、今後は、常設されている会議体での意見交換を促す。</p> <p>11. 問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている。</p> <p>12. 問題行動の防止のための早期指導に学校全体で取り組んでいる。</p> <p>⇒問題行動と呼ばれる生徒指導案件は、今年度は0件である。そのため教職員で一致団結して対応する姿を見られなかったと解釈することもできるが、支援が必要な状態であるのに孤立し、組織的に対応してもらえないと感じている教職員がいなか気配を配ることが必要。</p> <p>23. 人権尊重に関する様々な課題(外国から来た生徒、障がい者問題及び性別に関すること、体罰セクハラなどを含む)や社会ルールを守る意識育成の指導について、全教職員で話し合っている。</p> <p>⇒教職員向けには上記課題に係る研修を3回実施している。しかし、生徒にどう指導するかということまで話し合いが進んでいなかった。研修の最後に「生徒への指導」を検討する時間を設けて意見交換する。</p> <p>33. 研修組織が確立し計画的に研修が実施され教育実践に役立っている。</p> <p>⇒23と関連する項目で、現行では、研修の実施のみに力がそそがれている点を指摘している。今後は、研修ニーズを吸上げ、計画し、実施後に教育実践に役立ったかを検証するPDCAサイクルをまわしていくことが必要であろう。</p> <p>34. 経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている。</p> <p>⇒経験豊富な教職員の任期満了に伴う世代交代が進んだ。定時制での経験が少ない教職員を学校全体で育成支援する体制を整えることが急務である。学年団に主任と担任を置く体制づくりへの合意を現在進めている。</p> <p>24. 適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある。</p> <p>⇒緊急事態宣言発出による4月5月の学校休業期間があり、新年度体制への始動がギクシャクしたまま、この自己診断の時期(11/24)を迎えている。教職員間の業務量の多寡について学年内、分掌内で平準化すべく努め、次年度の新体制についても教職員から意見を募ることで肯定的意見の低さを緩和するよう努める。</p> <p>25. 各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。</p> <p>⇒毎日の情報共有の場であった対面連絡会がCOVID-19感染拡大防止のためにWebで行われていることが影響している。要請があれば、すぐに対面連絡会を持てるよう毎日定時に時間を確保しており、必要時にその活用を促す。他の方法も兼用して連携につながる情報共有を進める。</p> <p>31. この学校では、図書館が生徒に活用されている。</p> <p>⇒図書館利用促進のため、国語の授業で図書館を利活用し生徒に親しみをもってもらう工夫を重ねている。他教科での利活用も検討する。</p> <p>22. 情報リテラシーや情報モラルを高める教育に取り組んでいる。</p> <p>⇒毎年SNSについての講習を2月に実施しているが、学校教育自己診断を実施する11月までには、生徒に対する全体での教育の場がない。肯定的意見の割合が増えるには、情報科の授業で取り組んでいることなども発</p>	<p>第1回(7/10) 書面開催</p> <p>(1) 令和2年度学校経営計画について(中長期的目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒数が減少し、アンケート調査母数が小さい中で、100%維持をめざすことが本当に必要か。仮95%であればダメなのか。95%だったらどうするのか。単に数値目標を達成した・しないで評価するのはいかなものか。もう少しゆるめてもよいのではないか。 進路未決定者の特性や状況に共通する要因があれば教えて下さい。特に学校斡旋就職内定率は100%を維持しておられるようですので、進路未決定者は就職以外の進路希望を持つ生徒ということなのか、そもそも将来に対して動く意欲がないということなのか。就職以前に就労体験としてアルバイトなどに取組むよう勧めはどうか。 学校斡旋就職内定率100%維持に向け、コロナ禍の中の高校生の就職状況の見通しと現在取り組んでおられることについて教えてください。 HPでLGBTの講演会のようにすを拝見しましたが、他にはどのようなテーマで実施されていますか?障がいのある生徒さんや、外国籍の生徒さん等、一人ひとりが当事者である場合も多いと思います。ホームルームで自己を語る機会を設けたり、社会の構造の中で自己の課題を捉え返す機会があればと思います。 年6回を予定されている教職員研修のテーマを教えてください。→生徒支援のスキル向上をめざすものです。①②SSWの講話③SCの講話④就職活動支援員の講話⑤日本語指導を必要とする生徒の支援について⑥発達障がいの理解について。 <p>(2) 働き方改革について</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の働き方改革についての目標設定や方針があってもよいのではないかと。→職員会議、委員会などの効率化を目標に挙げています。学校経営計画の3-4-U3 <p>第2回(11/19) 対面での開催</p> <p>(1) 前期授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての質問において「3.2(80%の肯定率)」以上の集計結果が出ており、授業に対する取り組み等全般について肯定的にとらえている生徒が多い。 経年変化を見ると平成29年度下期をピークとして評価が下降していたところ、令和元年度上期を底に今年度上期までは評価が徐々に回復している。 緊急事態宣言発出による4月5月の学校休業期間があり、その間、登校できず、授業を受けることができなかったため、前期授業アンケート実施(8/20)時点で肯定率が高くなったのではないかと。 「生徒による授業評価」の分野においても約86%の生徒が「先生は、毎時間、授業の目標やポイントを明確にし、ICT機器やプリント等の教材を効率的に活用している。」と回答。「授業に関する生徒の意識」の分野では、約84%の生徒が「授業に興味・関心を持って取り組み、知識や技能が身についたと感じている。」と回答。このような結果になった理由としては、学校に来て学べることの喜びや、周囲とのつながりが確認できたことによる安心感などが、現れたのではないかと。 <p>(2) 授業見学【授業見学の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> どの年代の生徒にも合う教材を先生が用意しており、オリジナリティを感じた。 なぜ学ぶのか、学んだことが社会とどうつながっているのかを捉えることが大切でそれを実践されていた。 プロジェクターを使用した授業がよかった。 楽しそうに授業を進めてくださっていた。 定時制の授業を見学したのは初めてで感動した。学ぶ原点、教える原点があるように思う。 上級生の教室では、教室全体の雰囲気の一つになっていてクラスのつながりが深いと感じた。 <p>第3回(2/12) 書面開催</p> <p>①令和2年度学校経営計画及び学校評価案、令和3年度学校経営計画及び学校評価案(令和2年度学校経営計画及び学校評価案:承認された)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒支援の体制について、高い評価を得ており、大手前高校定時制のつよみとなっていることがわかる。 生徒と保護者の学校教育評価が昨年並みであることは、よいことだ。先生方は、COVID-19対応で忙しくてしんどかったことと思う。先生のがんばりを評価してねぎらってください。 やはりCOVID-19の影響があるので、もう一年様子をみる。 <p>(令和3年度学校経営計画及び学校評価案)</p> <ul style="list-style-type: none"> COVID-19は2~3年間にわたって影響を及ぼすだろうと考えたとき、4年間の定時制高校生活でその大部分にCOVID-19の影響があることになる。COVID-19を前提とした新しい学校のあり方、行事や授業を考えてほしい。 Webの活用を勧める。やってみたらよかったということがあるので、うまくいかなかった所は、後から改善すればいい。 入学前の情報収集をスクールソーシャルワーカーと共に行ってはどうか。 社会の中の自分を理解するのが人権教育、そのうえでキャリア教育として自分が大切に生きる方で進路を拓くことをめざす。学校経営計画の3「キャリア教育と人権教育の充実」にあるように連携して行われるものである。

府立大手前高等学校 定時制の課程

<p>信して、情報モラルを高める教育に取り組んでいることを教職員で共有する。</p> <p>※次回の診断時に今回ポイントが下がった上記の質問について記述欄「なぜそう思いましたか」を設ける。判断理由を尋ねよりの確な分析と対策に役立てる。(令和3年1月28日学校教育自己診断分析会議提案)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページをもっと充実させる。回数よりも質を考える。たとえば校内の出来事の発信などが効果的だ。 <p>②全日制令和3年度学校経営計画及び学校評価案 (承認された)</p> <p>③学校教育自己診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベテランの先生が定年で退職されるなど、世代交代があり、若い先生が増える中、若い先生への支援を厚くする必要がある。 ・アンケートの数値は職員数が少ないため数人で値が変化する。高低に一喜一憂することよりも継続的に取組みを進めること。 ・(生徒) 本人が楽しそうに学校に行っています。 ・生徒がどんな姿で卒業してほしいのか、「めざす学校像」に照らして、各学年に語ってもらうとよい。 ・教職員の育成に関しても各自に3年先、5年先のビジョンを語ってもらうとよい。 <p>④後期授業アンケート結果、経年変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての問の回答の平均が 3.38 (84.5%の肯定率) との集計結果がでており、授業に対する取組みについて肯定的にとらえている生徒が多い。 ・令和2年度前期に比べると、後期は、授業アンケートに対する全体の意識(すべての問の回答の平均値) がやや上昇している。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒各自が持つ学力の最大限の伸長	<p>(1) 生徒の学力の正確な把握</p> <p>(2) 生徒の自己実現を促進するための取組み</p>	<p>(1) ア 基礎学力テスト※や適性検査等により、生徒の学力を正確に把握する。</p> <p>※ 数学基本力調査：中学段階の到達度をみる。 漢字検定(自作)：当用漢字の習得度をみる。 日本語テスト：日本語運用能力をみる。</p> <p>(2) ア 落ち着いた学習環境で学べるようにするため、全教員で授業中の規律指導を行う。</p> <p>イ 少人数授業を行い、「授業が楽しい」「授業がわかった」「力を伸ばし、成長できた」と生徒が思う授業づくりに努める。</p> <p>ウ T-NET 講師の活用により英語コミュニケーション力の向上を図る。</p> <p>エ ICT 機器や視覚教材を活用した、魅力的でわかりやすい授業実践を進める。</p>	<p>(1) ア ・1学年では、入学時に基礎学力テスト等を行い、学力、習熟度を把握して、授業の重点内容に反映させる。</p> <p>・2、3、4学年では、高校在学中に適性検査等をおこない、各自が持つ潜在的な能力や適性を把握して、キャリアを考える資料とする。</p> <p>(2) ア 「授業中は集中して先生の話聞いて学習に取り組んでいる。(授業アンケート)」の肯定率85%以上を維持する。(R1:87%)</p> <p>イ 「授業内容に興味・関心を持つことができていると感じている(授業アンケート)」の肯定率85%以上を維持する。(R1:85%)</p> <p>ウ ・外国語講師に関する授業アンケートにおいて授業満足度85%を目標とする。(R1:90%)</p> <p>・スピーキングテストを各学年1回実施し、英語を「話す力」の育成に努める。(R1:各学年1回実施済)</p> <p>エ 学校教育自己診断の以下の指標</p> <p>・「教え方に工夫している先生が多い」(生徒)の項目の肯定的意見80%以上を維持する。(R1:87%)</p>	<p>(1) ア 1学年6月に基礎学力テストを実施(○)</p> <p>数学：分数や比の計算が苦手だが文章題を解く力がある傾向 漢字検定(自作)：全学年で級別に実施して各級の上位者には全校生徒の前で表彰式を行いモチベーション向上につながった。</p> <p>日本語テスト：入学時に日本語サポートの専門家による4技能の日本語運用能力をみるテストを行い、日本語支援の方策を決定した。</p> <p>・2年、3年生は適性検査実施のタイミングを相談のうえ、本年度の実施は見送った。4年生は、就職応募先を見極める1つの材料として適性検査を行った。(○)</p> <p>(2) ア肯定率(R2:85%)(○)</p> <p>イ肯定率(R2:82%)(△)</p> <p>ウ ・授業満足度(R2:88%)(○)</p> <p>・スピーキングテスト実施回数(◎) 1年3回 2年1回 3年4回 4年2回</p> <p>(R2:89%)(◎)</p>

府立大手前高等学校 定時制の課程

		<p>オ 日本語指導を必要とする生徒への支援スキルを向上させる講習会を行い、支援方法を共有する。</p> <p>・学外の多文化教育研修等に参加して、その知見を共有する。</p>	<p>・「生徒の学習意欲に応じて学習指導方法や内容について工夫している」(教員)の項目の肯定的意見85%以上を維持する。(R1:100%)</p> <p>・「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」(保護者)の項目の肯定的意見80%以上をめざす。(R1:83%)</p> <p>オ 授業アンケート「日本語指導の満足度」70%以上をめざす。(新規)</p> <p>・研修に参加して得た知見を毎回必ず職員会議等で報告し、全職員で共有する。</p>	<p>(R2:94%) (◎)</p> <p>(R2:65%) (△) 未成年生徒の保護者と連絡を密にして授業についての感想も取得し、授業づくりに反映させる。</p> <p>(R2:100%) (◎)</p> <p>・職員会議を効率的に行うことによって時間短縮し、生み出した時間で職員会議後に3回研修を行った。テーマは多文化教育以外にも広がった。(○)</p>
<p>2 生徒各自に必要な支援を行える体制づくり</p>	<p>(1) 個に応じた支援体制の強化に向けた取組み</p>	<p>ア 中学校や福祉機関等と連携して、新入生の生徒情報を収集し、「高校生活支援カード」に集約する。</p> <p>イ 全教職員が生徒の情報を共有し、細やかな指導で卒業まで個別支援を行う。</p> <p>・生徒一人ひとりへの細やかな支援方を検討する。</p> <p>ウ 校内生徒支援委員会の機能をさらに充実させる。</p> <p>・SC、SSW とのケース会議により個別生徒の状況観察 (Observe)、状況判断 (Orient)、支援計画の立案・意思決定 (Decide)、実践 (Act)、の OODA ループを確立する。</p> <p>エ 生徒が気軽に相談できる場所を増やす。</p>	<p>ア 「高校生活支援カード」の作成、活用率 100%を維持する。(R1:100%)</p> <p>イ 卒業率 80%以上を維持する。(R1:90%)</p> <p>・学校教育自己診断の項目「必要な支援体制がある」の肯定率 70%以上をめざす。(新規)</p> <p>ウ SSW 同席による校内生徒支援委員会を年間 10 回以上の実施を維持する。(R1:13 回)</p> <p>・OODA ループが確認できるようにケース会議の記録用紙書式を新たに作成する。</p> <p>エ 学校教育自己診断 (生徒) の以下の指標</p> <p>「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の項目について肯定回答率 80%以上を維持する。(R1:89.1%)</p> <p>「担任や学年の先生以外にも保健室や他の場所で相談できる」の項目について肯定回答率 80%以上をめざす。(R1:77.3%)</p>	<p>(R2:100%) (○)</p> <p>(R2:82%) (○)</p> <p><生徒>先生たちは、自分たちが困っていることについて支援してくれる。(R2:98%) (◎) <教職員>生徒一人ひとりへの細やかな支援の方策を検討している。(R2:94%) (◎)</p> <p>(R1:15 回) (◎)</p> <p>・「アセスメント・プランニングシート ver.9」を作成した (○)</p> <p>(R2:93%) (◎)</p> <p>(R2:85%) (◎)</p>
<p>3 キャリア教育と人権教育の充実</p>	<p>(1) 入学から卒業までの期間を見通した、キャリア教育の実施</p>	<p>ア 卒業後の生活設計を考えた、生徒個々の進路指導の充実。</p> <p>イ 社会人基礎力の養成</p> <p>・自己有用感を高め、自覚的に行動できるスキルを高めるために、アサーション・トレーニングやコミュニケーションスキル向上を目的としたワークショップを実施する。</p>	<p>ア 進路未決定率を少しでも減少させる。15%以下をめざす。(R1:16%)</p> <p>・学校教育自己診断 (生徒) による「進路指導の満足度」肯定回答率 70%以上をめざす。(新規)</p> <p>・ハローワークや若者サポートステーション、障がい者就業・生活支援センター等と連携し、就労指導のスキルを向上させる。3か所以上の連携先を持つ。(新規)</p> <p>イ</p> <p>・1年生を対象にアサーション・トレーニングやコミュニケーションスキル向上のワークショップを実施する。(R1:1 回実施)</p>	<p>(R2:18%) (△)</p> <p><生徒>将来の進路や生き方について考える機会がある。(R2:91%) (◎)</p> <p>連携先 9 カ所 (◎) うち新規連携 4 カ所</p> <p>(R2:1 回実施) (○)</p>

府立大手前高等学校 定時制の課程

	<p>(2) 人権教育推進委員会の活性化と人権ホームルームの計画・実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就労意識の向上と社会体験を積むことを目的にアルバイトへの挑戦、継続を支援する。 <p>ウ 就職希望者の内定率を高めるための勉強会や就職試験対策に関する取組みを充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学年の進路 HR や進路講演会、個別面談等を通じて就労、進学へ結びつける指導を推進する <p>エ 保護者に学校での指導の様子を知らせ、協力を呼びかけるため、「進路だより」を発行する。</p> <p>(2) 人権教育推進委員会を活性化させ、本校において系統立てた人権ホームルームができるよう、準備を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たにアルバイトに取り組む者とアルバイトを継続する者の合計数がアルバイト経験を勧めた生徒の60%以上となることをめざす。(新規) <p>ウ 学校斡旋就職希望者の内定率100%を維持する。(R1:100%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業予定者の進路 HR について年間15回以上を維持する。(R1:20回) ・ 1年生、2年生、3年生については、年間4回以上実施する。(R1:1年6回、2年6回、3年5回) <p>エ 「進路だより」を年間5回以上の発行を維持する。(郵送、ホームページにアップして周知)(R1:5回)</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人権教育推進委員会企画のもと、人権意識を高める教職員向け人権研修を実施する。(R1:1回実施) ・ 生徒向けの人権講習会(外部講師の招へいも含む)を実施する。(R1:1回実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アルバイト開始の相談を受けた者は全員アルバイトを開始した (R2:100%) (◎) (R2:100%) (◎) (R2:22回) (◎) (R2:1年5回、2年4回、3年14回) (◎) (R2:5回) (○) (R2:2回実施) (○) (R2:1回実施) (○)
<p>4 学校力の向上</p>	<p>(1) 組織力を高める教職員相互のスキルアップと外部機関との連携促進</p> <p>(2) いきいきとした学校生活を送るための環境整備</p>	<p>ア 将来の学校像について中・長期的なビジョンを持って検討する。</p> <p>イ 落ち着いた教育環境の保持及び学校生活のマナーについて組織的な指導体制を構築する。</p> <p>ウ 研修と相互研鑽を通じて教職員の力量を高める。 ・ 教職員研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究公開授業週間を教職員同士で学びあえる場になるよう工夫する。 ・ 定時制高校相互の授業実践見学や情報共有、他校の先進事例等の研究を推進する。 ・ 職員会議資料を前もって閲覧できるようにして、会議の効率化を図る。 <p>エ 専門的な知識・技術を有する外部機関との連携強化</p> <p>オ 広報活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校への広報で本校の良さをアピールする機会を増やす。 ・ 学校ホームページや学校案内パンフレットの有効活用 	<p>ア 検討の場である拡大企画調整委員会を年間5回開催し、案をまとめる。(新規)</p> <p>イ 学校生活のマナー徹底を図り、生徒指導件数をごく少数に抑える。(R1:生徒指導件数2件)</p> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員研修を年間6回以上実施する。(H29:4回、H30:6回、R1:12回) ・ 研究公開授業週間用授業参観シートを作成し、活用する。 ・ 研修に参加して得た知見を共有すると共に11月の研究公開授業週間の授業実践で活用する。 ・ 職員会議資料を指定のフォルダに格納し、前もって閲覧できる状態にすることで職員会議の効率化を図る。(R2:年間職員会議数の90%以上で実施) <p>エ 若者サポートステーション主催の連絡会議に出席し、情報共有する。年3回以上 (R1:年4回)</p> <p>オ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校向けの学校説明会を2回行う。(R1:1回実施) ・ 中学校への出前授業を行う。(R1:1回実施) ・ 大阪市立定時制高等学校進学説明懇談会に参加する。(R1:参加し定時制高校の説明を実施) ・ 学校ホームページのブログ発信回数を増やす。月1回以上。(R1:9月より開設。6回/7か月) 	<p>9/24, 10/12, 12/15, 12/23, 1/225 回開催</p> <p>「大手前(定)のつよみ」 「大手前(定)のつよみ(教職員版)」 「つよみを維持するために組織としてできること」をまとめた(○)</p> <p>(R2:生徒指導件数0件)(○)</p> <p>(R2:6回)(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業参観シート活用(○) ・ 定時制高校相互の授業実践見学2名で1回(○) ・ (R2:年間職員会議数の70%で実施)(△) (R2:Web会議と動画配信に替えて参加した)(一) (R2:2回実施)(○) (R2:1回実施)(○) (R2:参加して定時制高校の説明を実施)(○)

府立大手前高等学校 定時制の課程

			間) ・学校案内パンフレットを更新する。	(R2:月1回以上でのべ22回発信) (○)
	ア 部活動の活性化		ア 部活動をする生徒数を前年度より5%増やす。(R1:42人)	学校案内パンフレットを更新し、中刷りに「大手前(定)のつよみ」を記載した。(○)
	イ 保護者との連携強化		イ 学校教育自己診断(保護者)における「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」80%以上を維持。(R1:93%)	部活動をする生徒数(R2:25人)(△) 4月5月の休校により部活動への勧誘が活発に行うことができなかった。
	ウ 地域との連携による防災活動の推進		ウ ・学校防災アドバイザー派遣事業を活用し、定時制と地域自治会の共催による災害時避難所実習を実施する。 ・災害時の対応についてマニュアルを作成する。	(R1:76%)(△) 未成年生徒の保護者への情報提供と収集を密にする。 COVID-19 感染拡大防止のため中止。 (一) ・「学校防災アドバイザー派遣事業」を活用して作成した災害時の対応マニュアルを作成し、防災士と共に点検した。 (○)